

2 授業づくり

1 学力・学習状況に係る本県の状況

令和6年度全国学力・学習状況調査結果の概要は次のとおりである。

- 島根県と全国の平均正答率の比較について、小学校国語、中学校国語においては、全国平均並みであった。小学校算数、中学校数学においては、全国平均を下回った。
- 小学校国語では、「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均並みであったが、「話すこと・聞くこと」は全国平均を下回った。
- 小学校算数では、「図形」「データの活用」は全国並みであったが、「数と計算」「変化と関係」は全国平均を下回った。
- 中学校国語では、「我が国の言語文化に関する事項」は、全国平均を上回った。「書くこと」「読むこと」「情報の扱い方に関する事項」は、全国平均並みであったが、「話すこと・聞くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国平均を下回った。
- 中学校数学では、すべての領域において、全国平均を下回った。

児童生徒質問・学校質問調査の結果より、「しまねの学力育成推進プラン」（令和3年度～令和6年度）の取組の柱ごとに、課題の改善状況等を次に示す。

（1）授業の質の充実

- 「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」については、小中学校ともに肯定的な回答が8割を越え、全国並みである。「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」については小中学校ともに肯定的な回答が8割を越え、小学校では昨年度に比べ大幅に上がっている。引き続き、自分の考えを発表したり、友達の発表を聞いたりするなどの協働的な学びの場を確保するとともに、個別最適な学びの充実を図る必要がある。
- 「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週3回以上使用した」と回答した児童生徒の割合は、小中学校ともに過去の調査と比べ増加しているが、全国を大きく下回っている。「児童生徒同士がやり取りする場面」や「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」、「デジタル教科書の活用」等、端末の効果的な活用を市町村教育委員会と共に進める必要がある。

（2）家庭学習の充実

- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上勉強する」児童生徒の割合は全国的に減少傾向にある。全国と同様に島根県も減少しており、家庭学習時間の差は縮まっていない。「家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例をあげながら教えた」と回答している学校は9割を越えており、学校は家庭学習の充実に向けて取り組んでいるが、児童生徒の学習時間の増加にはつながっていない。家庭学習の充実に向けた取組の好事例を各学校に広げ、家庭学習と授業との有機的な結び付きを図るとともに、1人1台端末の家庭への持ち帰りによる活用など、児童生徒が自分にあった学習方法を見出せるよう支援する必要がある。

（3）地域に関わる学習の充実

- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」児童生徒は、昨年に比べ大幅に増えた。中学校では、全国を上回り、小学校でも全国並みであった。「教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている」と回答した学校が小中ともに9割を越え、全国を上回っていることから、各校での地域と連携した学習の成果であると考えられる。
- 『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」について、小学校は全国並み、中学校は全国を上回った。肯定的な回答をした児童生徒は、小中学校ともに8割を越え、昨年度に比べ増加している。また、9割程度の学校が「調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る

探究の過程を意識した指導をしている」と回答しており、各校での授業改善が、児童生徒の探究の過程をふまえた学びにつながっていると考えられる。

(4) その他

- 「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」と「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」について、それぞれ3時間以上と回答した児童生徒の割合は、全国と比べ少ないが、島根県においても一定数存在している。

長時間のメディア接触が学力に及ぼす影響について危惧されていることや、心と体の健康を図るために、メディアとの適切な接し方について、保護者と連携して対応していくことが必要である。

- 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」について、肯定的な回答をした児童生徒は、小中学校ともに昨年度同様8割を越えている。

今後も、児童生徒一人一人の課題等に対応したきめ細かな指導の継続が求められる。

2 課題解決のための授業改善の視点

「しまね教育魅力化ビジョン」（令和2年3月策定）中の「Ⅶ 教育環境の充実」「(1)学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む教育」において、基礎学力の育成について、学校の現状と課題等を踏まえ、今後の方向性を示している。

○市町村教育委員会と連携・協力し、「全国学力・学習状況調査」及び「島根県学力調査」の結果分析に基づいた指導の改善を推進する。

小中高の系統性・連続性を図りながら、基礎的な知識・技能をしっかりと身に付けさせ、人生や社会で生かすことのできる確かな学力と学び続ける意欲を育む教育を推進する。

(1) 授業の質の充実

全国学力・学習状況調査等の各種調査の分析を参考にし、各教科等の連携を図りながら組織的かつ計画的に授業の質を充実させる。

- ・全教員が課題のあった問題等を解き、改善策や手立てを考え、全校で取組を行う。そして、具体的な子どもの姿で取組の改善状況を把握する。
- ・自分の考えを語尾までしっかりと話すこと（説明すること）、書くことを繰り返し指導する。
- ・話し合いの場で、目的を明確にして児童生徒に示すとともに、議題や手順、ツールなどを具体的に指導する。
- ・「個別最適化学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、「考えをまとめ、発表・表現する場面」「児童生徒同士がやり取りする場面」「児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」などで1人1台端末の日常的かつ効果的な活用を一層進める。
- ・児童生徒が身につける資質・能力を明確にした授業を行うとともに、校区の小中学校においては育てたい子ども像などを共有する取組を一層進める。

(2) 家庭学習の充実

家庭学習と授業との有機的な結びつきを図るとともに、児童生徒が自分に合った学習方法を見いだすことができるよう、教員の指導改善や児童生徒の学習改善を行う。

- ・「教育情報誌第49号（令和5年3月）」等を活用し、授業を家庭学習につなぐ具体的な指導について教員が共通理解をする。
- ・学習内容を定着させる宿題に取り組むだけでなく、学習計画を立て、計画に基づいて学習を実行する力を育むとともに、1人1台端末を活用した個に応じた家庭学習を充実させる。

（３）地域に関わる学習の充実

児童生徒一人一人が自ら課題を見付け、解決への道筋を見通しながら様々な解決方法を考える姿勢を育成する。

- ・「総合的な学習の時間ガイドブック」を活用し、「児童生徒の思考の流れに沿った探究活動が行われるような授業」を行う。
- ・地域素材の効果的な活用と、各教科等で身に付けた知識や技能を地域や社会での生活に生かそうとする意欲の醸成を行う。

（「令和６年度 全国学力・学習状況調査（文部科学省）島根県（公立）の結果概要」より）

- 発達の段階に応じて必要とされる知識・技能を習得し、使いこなせるようにするため、小学校、中学校、高等学校でその意義や目的を共有し、協調学習の考えを取り入れた授業改善に取り組む。
- 学校図書館活用教育や、学校で学ぶことと地域や社会でよりよく生きることをつなげる取組を進め、言語能力や問題発見・解決能力等を育成する。
- 児童生徒一人一人が授業でＩＣＴ機器を効果的に活用することなどを通して、情報活用能力等を育成する。
- ポートフォリオなどの個別の学習履歴を活用して、個々の理解度・到達度に応じた効果的な学習となるよう指導する。

「しまねの学力育成推進プラン」（令和３年度～令和６年度）の第２章「学力育成に向けた具体的な取組」において、授業の質の充実について、次の具体的な取組も示している。

〈学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む授業の展開〉

- （１）主体的・対話的で深い学びを実現する授業の推進
- （２）ＩＣＴの効果的な活用
- （３）指導と評価の一体化の重要性に係る理解促進
- （４）学力と学習状況の分析に基づく授業の改善
- （５）各教科等の特質に応じたキャリア教育の充実

〈教職員の指導力向上〉

- （１）教育情報の発信
- （２）学校マネジメントの強化
- （３）教育センター研修講座の充実
- （４）小中高合同授業研修会の開催

〈評価（各種の学力・学習状況調査、高校魅力化評価システム等による分析）〉

教員に求められる授業力に関して、島根県教育センターでは、『授業力』は、教科等指導において必要とされる「情熱・使命感」をはじめとする四つの要素で構成される」として、それぞれの構成要素を次ページのとおりとした。そして、経験年数に応じた研修において、要素ごとに「大切にしたい授業力の視点」を設定し、ねらいの達成に必要なプログラムのもと研修を実施している。（P43「経験年数に応じた研修（教育センター研修）において大切にしたい『授業力』の視点」参照）

3 学習評価

学習評価は、目標に準拠した評価により実施されており、児童生徒の学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」と、「評定」により評価している。観点別学習状況の評価は、きめ細かい学習指導を実施するため日常的に実施されるべきものである。

学習指導要領では、資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点について、小・中・高等学校の各教科等を通じて３観点到整理された。

学校における学習評価は、学習指導に係るPDCAサイクルの中で適切に実施し、学習指導の改善や学校に

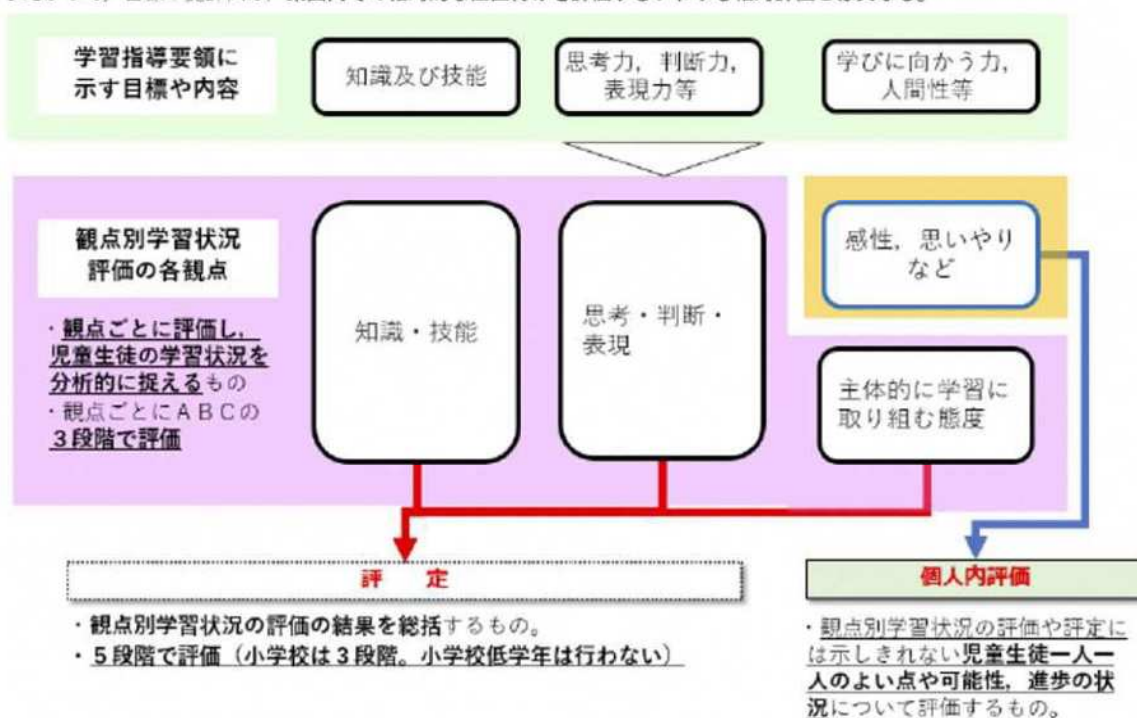
おける教育課程全体の改善に向けた取組と効果的に結び付けることが重要である。このサイクルは、日常の授業、学校における教育活動全体等の様々な段階で展開されるものである。学習評価を通じて、教師が授業の中で児童生徒の反応を見ながら学習指導の在り方を見直したり、一連の授業の中で個に応じた指導を図る時間を設けたりすることや、学校における教育活動を組織として改善したりしていくこと、つまり、「指導と評価の一体化」を図るための取組が必要となる。



学習指導と学習評価のPDCAサイクル
文部科学省（平成25年）育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会（第2回）配付資料より

各教科における学習評価の基本構造

- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- ・したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター（令和2年3月）
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 図3より

「全国学力・学習状況調査結果概要」、「しまね教育振興ビジョン」、「第2期しまねの学力育成推進プラン」、「令和7年度各教科等の指導の重点」、「令和7年度授業チェックリスト」など、授業づくりに関する資料については、「しまねの教育情報Web EIOS(エイオス)」に掲載予定。



経験年数に応じた研修（教育センター研修）において大切にしたい「授業力」の視点

◆教育センター研修における「授業力」の四つの構成要素の解釈

「情熱・使命感」

児童生徒等のよりよい成長を願って、周囲と協働しながら自らの資質向上を図っていく姿勢

「構想力」

指導のねらいを明確にするとともに教材を研究し、見通しをもって授業を計画・創造、改善していく力

「生徒理解力」

集団の中で個の可能性を引き出すために、児童生徒等一人一人の実態・特性を理解する力

「指導力」

学び合う集団づくりに努め、専門的な指導技術をもとに授業の目標の達成に向けて授業を実践する力

◆経験年数に応じた研修において大切にしたい授業力の視点（●は重点）

	初任者研修	6年目研修	中堅教諭等資質向上研修
授業でめざす 子どもの姿	教科等の見方・考え方を働かせ、資質・能力を伸ばす ～ 主体的・対話的で深い学びを通して ～		
「授業づくり ねらい」に	育成したい資質・能力を踏まえ、1時間1時間の指導の意図を明確にした授業ができる。	身に付けた資質・能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業ができる。	教科等横断的な視点に立った資質・能力*を踏まえ、教科等の目標に迫る授業ができる。 ※「言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力」及び「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」等のこと
指導と評価の一体化 ～授業改善につなげる～			
構想力及び生徒理解力	指導のねらい	●学習指導要領に示された児童生徒等が学習前に身に付けてきている資質・能力を踏まえ、児童生徒等の実態を把握する。 ●児童生徒等が学習前に身に付けてきた育成する資質・能力を踏まえ、単元(題材)において育成する資質・能力を明確にする。	●学校教育目標と教科等の指導内容の系統性、他教科等との関連性を踏まえ、育成する資質・能力を明確にする。
	指導計画	●児童生徒の主体的・対話的で深い学びが実現される学習活動を設定する。 ●児童生徒等が学習前に身に付けてきた資質・能力を踏まえ、目指す資質・能力を育むための単元(題材)計画等を構成する。	●他教科等との関連性や資質・能力の系統性を踏まえ、教科等が目指す資質・能力を育成する授業を行う。
	学習評価	●児童生徒が教科等の見方・考え方を働かせる授業を計画する。 ●児童生徒等が教科等の見方・考え方を働かせる授業を行う。	●単元(題材)の目標と評価規準を見通しながら、単元における評価の場面や方法を工夫し、資質・能力を育成するための学習指導に活かす。
指導力	・学び合う集団づくりに努める。(学習規律、安心して学習できる場) ・児童生徒等の発達段階等を踏まえた支援を行う。(個々のニーズに応じた指導や支援、ユニバーサルデザインの視点) ・指導技術を高める。(発問、言葉かけ、板書、教材・教具、ICT活用、学習形態等)		
使情熱・使命感	・多様な価値観を尊重する。 ・新しい教育情報等を進んで得ようとする。 ・他者から学ぶ。(同僚、管理職、保護者・地域、児童生徒等から)		